

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

開閉会日時		令和6年2月19日（月曜日）		開会	9:56		会議場所		別海町議会 委員会室3	
				閉会	13:46					
委員の出欠		3 番	高橋 眞結美	出席	6 番	宮越 正人	欠席	9 番	小椋 哲也	出席
		10 番	外山 浩司	出席	13 番	中村 忠士	出席			
出席説明員	福祉部	福祉部長		福祉部次長		福祉部次長兼保健センター長		福祉部次長兼町民課長		
		干場みゆき	出席	田村 康行	出席	小川 信明	出席	谷村 将志	欠席	
		福祉課長		介護支援課長		老人保健施設事務長		訪問看護ステーション所長		
		石戸谷 友絵	出席	高橋 勇樹	出席	渡辺 久利	出席	堀 留美	欠席	
		地域包括支援センター長		居宅介護支援事業所長		町民課特命課長		福祉課主幹		
		九里 富恵	欠席	大道 詳子	欠席	上田 健一	出席	澤田 憲一	出席	
		町民課主幹		保健課主幹		福祉課主査		介護支援課主査		
		西田 和弘	出席	畠澤 みどり	出席	大森 晴海	欠席	天神 幸子	出席	
		介護支援課主査		地域包括支援センター主査		町民課主査		町民課主査		
		松本 静香	欠席	井川 仁	欠席	岩光 理代子	欠席	小野 絵里	欠席	
		町民課主査		保健課主査		保健課主査		保健課主査		
		木幡 友哉	出席	山崎 さおり	欠席	對馬 恵子	欠席	佐伯 祐司	出席	
		保健課主査		老人保健施設主査		老人保健施設主査		税務課主査		
		成瀬 広子	欠席	中田 幸規	欠席	佐藤 裕美	欠席	伊藤 武史	欠席	
	別海 病院	病院事務長		病院事務課長		病院事務主幹		病院事務課主幹		
		三戸 俊人	出席	棧木 直人	出席	奈良 司	出席	大森 圭介	出席	
	建 設 水道部	上下水道課長		上下水道課主任						
		千葉 宏	出席	矢野 勝也	出席					
委員外の出席		議長	西原 浩					合計	1名	
事務局職員		局長	干場 富夫					合計	1名	
傍聴者数		一般	0名	報道関係者		0名		合計	0名	

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 10番 外山	9:56 開会
	出席委員4名、欠席委員1名、委員外1名、会期1日
	【福祉部所管事務調査】
福祉部長 干場	挨拶及び概要説明
委員長 10番 外山	議事1 所管事務調査
	(1) 福祉除雪について
福祉課 主幹 澤田	・資料により説明
委員長 10番 外山	質疑
	・市街地とはどこを指しているのか。
福祉課 主幹 澤田	・主に住宅が密集している地域というところではあるが、人力除雪でできる程度の場所 ということでは、別海市街地、西春別駅前地区、尾岱沼等の住宅地。 家から公道まで距離があるようなところは、郊外として機械除雪で行っている。
委員長 10番 外山	・11月に地域めぐり懇談会の中で出てきた意見の中では、除雪に困っているという意見 が多かった。
	市街地でも、中西別や上風連辺りはどうなっているのか。
福祉課 主幹 澤田	・中西別・上風連に関わらず、人力除雪で可能な所については、季節労働組合の方が 赴いて除雪をしている状況。
委員 3番 高橋	・避難経路を確保する目的ということで、玄関から公道までの範囲の除雪なんですけれ ども、人が通れる幅なのか、車が通れる程度の幅なのか。
福祉課 主幹 澤田	・特に決まりを設けているわけではないが、人が通れる程度なので、90cmから1m程度 になると思う。 車が出られるような通路を確保することにはなっているが、人力除雪なので、やっ ぱり限界があるのと、それだけの通路を確保するとなると、時間が1件1件かかってしま うということでは、まずは人が玄関から出られないということがないように、道路までは出ら れることの趣旨ということ。
委員 3番 高橋	・デイサービスとか訪問介護を利用している方は、そのサービスを利用できるためというこ とではないのか。
	要するに、訪問介護サービスの車が入れないという問題もあった。
福祉課 主幹 澤田	・サービスを利用している方は、審査の中で加算しているという話をしたが、あくまで要保 護世帯除雪としての対象とする点数の項目として、加算をしているというところで、その デイサービスの車が玄関前まで入れるようにするというところまでの除雪の対応が現在 はない。
委員 13番 中村	・季節労働組合に登録されている人数と平均年齢がわかれば。
福祉課 主幹 澤田	・昨年の数字にはなるが、登録人数が54名、平均年齢が73歳。
委員 13番 中村	・応募してくるのを待っている格好だと思うが、町としてのそういう団体育成だとか発掘だ とか、そういうようなことについての働きかけは。
福祉課 主幹 澤田	・現在、町から団体に対しての声かけというのは、していない状況。 季節労働組合の方で、一応、何とか成り立っているところもあり、その積極的な働き かけは、現在行っていないが、その季節労働組合がこの先何年やっていただけるかわから ない。 団体数を増やしていかなければ継続できなくなるのではないかということもあるので、今 後も団体への声かけについては、検討していきたいと思う。

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

委員	13番	中村	・福祉関係のサービス等で、車が入れないというか、駐車場が空いていなくて困るという声が、相当数ある状況について、それについての考えは。
福祉部長	干場		・やはり、町民の方の意識がまず第1かなと思う。
			近所の方の意識というのも、昔と比べるとちょっと少なくなっているのもあるんですけども、地域福祉という面では、そういった方向からも、お隣、近所の関わり方っていうのも進めていかなきゃならないと思っていますし、そのサービスの提供については、当然サービスを実施していただく事業者さんの協力・連携も必要になってくると思う。
			町の中であれば、短距離で本当に一緒に除雪していただいて、通路を確保していただいて、早急に対応できる場合もあれば、郊外のように公道から玄関までは数百メートルの所もあるので、そういった場合は実施の可否ですとか、その日に実施しなければならぬサービスかっていうところなども、サービス事業者とも調整をしながらやっていかなきゃならないかなというふうに思っているんで、本当に、その時その時のその方の住居のサービスの状況に応じた対応が求められると思っている。
			近年の除雪の体制も複雑化して、多様化しているのかなと思いますので、少しずつですけれども、そういったことも配慮しながら、除雪作業を委託業者とともに進めていきたい。
			先ほどから委託団体の懸念というのもあるんですけども、やっぱり地域の方の御協力も少しずつ含めさせていただかなきゃならない時期ではあるかなと思っている。
			どこの町村も、この除雪については、困難事例になっているので、他の町の施策も研究していきたい。
委員	9番	小椋	・委託費はどういう積算しているのか。
福祉課	主幹	澤田	・1時間当たりの単価を出して、毎月、実際除雪にかかった時間、人数を報告いただいて、それに対して金額をお支払いしている。
			令和5年度の単価は、1時間当たり3,190円。
委員長	10番	外山	・他にないかあるか。
委員	一同		・なし
委員長	10番	外山	議事2 その他
			(1) 障がい者計画（第4期）、第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画について
福祉課	主幹	澤田	・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員	9番	小椋	・資料の確認だけ。
			10ページに障害のある方の状況を書いているが、これこの後にいろんなこう働くとか学ぶって意味でも、年代別の構成の統計があったら、非常にスマートに資料がクリアに見えるかなと思ったが、掲載する予定があるのか。
福祉課	主幹	澤田	・概要版ということで、省略して掲載しているが、第2章については、各種障がい者手帳の状況の後に、それぞれの手帳の種別・等級別を掲載している。
			その他、児童生徒数、支援学校等の生徒数等の情報も掲載している。
議長	西原		・策定委員会の構成が前回から変更になったということだが、名簿は出せないのか。
福祉部長	干場		・今回は概要版なので、掲載していないが、本編には掲載されている。
委員長	10番	外山	(2) 高齢者保健福祉計画及び第9期介護保険事業計画について
介護支援課長	高橋		・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員	一同		・なし
委員長	10番	外山	(3) 健康づくり21（第3次）について

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

保健課	主幹	畠澤	・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員		一同	・なし
委員長	10番	外山	(4) 第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）及び第4期特定健康診査等実施計画について
町民課	主幹	西田	・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員		一同	・なし
委員長	10番	外山	(5) 第2期のち支える別海町自殺対策行動計画について
保健課	主査	佐伯	・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員		一同	・なし
委員長	10番	外山	(6) 別海町一般廃棄物処理基本計画（中間見直し）について
町民課	主査	木幡	・資料により説明
委員長	10番	外山	・何か確認したいことはあるか。
委員		一同	・なし
			福祉部 11:47 終了 休憩
			13:18 再開
委員長	10番	外山	挨拶
			【病院所管事務調査】
病院事務長		三戸	挨拶及び概要説明
			・新型コロナウイルスの感染状況については、引き続き感染が見受けられている。 去年の10月からコロナ専用病床を7床設置するとともに、現在でも発熱外来については、継続して実施している状況。 新型コロナ陽性者が継続して発生し、若干、最近は増加傾向も見受けられるため、別海病院としては、引き続き、感染防止と感染者が発生した場合の診療体制を維持しながら、コロナ対応については、適宜、現状に合わせて、縮小することを検討して実施していく。 インフルエンザについては、年末年始に感染者が増加し、12月25日から1月7日までの約2週間ぐらいで140名の感染を確認している。 これがピークなのかなというところで、現在はピーク時と比較してインフルエンザ感染者は減少している。 1月29日に開催された第1回の臨時会で町長から報告のあった中島外科医長、越智内科医長の退職について、御二方とも一身上の理由ということで、3月31日付けの退職を予定しているが、越智医長の最終診療が2月16日、中島医長の最終診療が3月1日を予定している。 町長から説明もありましたが、後任の医師確保に向けて、札幌医大または院長はじめ常勤の医師と関係の深い医療関係者の方に対して、別海病院で勤務可能な医師について、御紹介くださるよう依頼しているところ。 また、引き続き、医療確保支援機関である社団法人全国自治体病院協議会等を通じて、医師の募集を行うとともに、民間の医療斡旋業者を活用して医師の募集を行っている。 今後においては、全力を挙げて医師の確保に努めるとともに、また、当面の間は体制の方は、なかなか厳しい状況ではあるが、現行体制で何とか町民の皆様にとって適切な医

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

			療サービスを継続して提供できるよう、院長以下できる限りで対応してまいりますので、御理解をお願いしたい。
委員長	10番	外山	議事1 所管事務調査
			(1) 町立別海病院の運営について
病院事務課	主幹	大森	・資料により説明。
			別海病院経営強化プランの最終案を策定したので、変更点に主眼を置いて説明する。
			計画期間だが、前回の説明時に令和5年度を含めるか検討中であると説明したが、年度の残日数を鑑み、本年度を含める必要性がないと判断し、計画期間を令和6年度から9年度としている。
			10ページ、5の(1)役割・機能の最適化と連携の強化、地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能については、「町民が別海町で最期を迎えられる医療と介護体制を整え、自治体病院として担うべき公共性の医療と果たすべき経済性の両立を目指し、快く患者を迎える風土作りを行い、町民に寄り添う医療を実践していきます。」を追加し、当院は、町内唯一の病院でありまして、町民の幅広いニーズに応える責務があることから、急性期の方から回復期、慢性期、終末期さまざまな形態の医療提供を行っていくことをここで述べている。
			11ページ最下段の(4)医療機能や医療の質、連携の強化に係る数値目標を追加し、今後の研修医受け入れの数値目標を表記している。
			当院は、現在、市立釧路総合病院、市立枚方病院、大阪医科薬科大学病院から地域医療研修として臨床研修の受け入れを行っているところ。
			今後も、先ほど述べた病院のほか、他の基幹病院とも調整し、受け入れ件数を増やそうとするもの。
			13ページ、(3)臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保を追加している。
			若手医師の確保という点において、生活する上での利便性の観点から、なかなか選択してもらうというのは、通常の募集だけでは困難であると認識していることから、研修医の募集を積極的に行い、本院の特色などを知ってもらって当院を就職先の選択肢に含めてもらう第一歩と考えている。
			14ページ、9施設・設備の最適化、(1)施設・設備の適正管理と整備の抑制について、2点ほど修正している。
			1点目は、早急に修繕計画の前に、「当院が果たすべき役割・機能も考慮したうえ、規模を検討した」という部分を追加し、これは、修繕計画策定のプロセスの中で、その時の状況を十分考慮し、要望等を決定することを表している。
			2点目は、「中長期の医療提供体制等を勘案のうえ」を追加し、機器の整備が過剰または不足とならないように、医療提供体制に見合ったもので計画するということを表現している。
			18ページ、11経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等について、前回の説明では経常収支が2027年度でマイナス2億7,900万としていたが、国から計画期間中に収集しの均衡を図るよう要請されていることから、数値を精査し修正している。
			当院の経営環境は非常に厳しく、期待を含めた目標値ではあるが、診療報酬の再確認や経費の削減、診療体制の見直しなどで、この数字に近づくよう努力していく。
委員長	10番	外山	質疑
委員	9番	小椋	・副院長が定年退職だと思うけど、退職後はどのような扱いになるのか。
病院事務長		三戸	・引き続き、会計年度職員として、残っていただいて、診療体制を調整しているところ。

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

委員 9番 小 椋

・出産できる産婦人科って言う、産婦人科医が2名以上いないとできないということで、現実で会計年度職員 1 名で、プラス内科・外科を差し置いて、産婦人科を先にとはならないと思うので、今後の体制作れないという現実と思う。

産婦人科の今後の病院での扱いは、今のところ本プランでは、普通に産婦人科っていうふうに入っているけど、今後どのようにしていく見通しをしたのか。

病院事務長 三 戸

・退職した医師の関係で、老健の管理医師等の関係もあり、今のところ、毎日ということにはならないのかなと。

委員 9番 小 椋

・どちらかというと、婦人科みたいなイメージか。

実際に出産できないとなると、出産前の検診に来る方も中標津行ってもらって、主に婦人科っていう扱いに近いものになるのかどうか。

病院事務長 三 戸

・あくまでも、私の予想になるが、婦人科の人はOKになると思う。

あとは、妊娠初期の方ともしかしたら安定期になるまでは定期的な検診を行うかもしれないし、いずれにしてもその程度。

その場合、泊まりの当番でも産婦人科医の方がいらっしゃると思うが、それはもう受けずに、あくまでも、限定的な産婦人科の開設というイメージか。

お産はうちで受けられなくなるので、救急とか産婦人科の何かトラブルというのは、基本的には中標津あるいは釧路の方に依頼することになるのかなと。

夜間だとか祝日については、産婦人科の待機というのはなくなるのかな。

退職する医師に関連して、プランの12ページの100床当たりの医師数だが、計画年度が6年からになったので、事実上もう1日から数字が下がるのかなと。

前回と同様に、退職される方も含めた数値なのか。

病院事務課 主幹 大 森

・前回と同じ数字。

委員 9番 小 椋

・実質、4月1日からは、この数字が100床当たりの医師数がぐっと減るじゃないですか。何年現在って載ってないので、載せるかもしくは数字を減らした方がいいのではないかな。

病院事務課 主幹 大 森

・わかりました。

委員 9番 小 椋

・13ページ、若手医師の確保のところで、別海病院の協力提携病院というのはどこになるのか。

病院事務課 主幹 大 森

・今の所、受け入れているのは先ほど説明した市立釧路総合病院、市立枚方病院、大阪医科薬科大学病院だが、研修に当たっては、札幌大や旭川医大、そういったところのその研修医の管理研修委員会とか、こちらの方に町も名を連ねていますが、現在の所、受け入れには至っていない。

委員長 10番 外 山

・研修医の受け入れだが、現在もこういう形で行っていたのか。

病院事務課長 榎 木

・今年度で言うと、市立釧路総合病院から2名と枚方病院から3名、大阪医科薬科大学病院から2名を受け入れていた。

令和6年度の予定は、市立釧路病院の方が自己都合で参加できないという情報が入ってきており、枚方病院から4名と大阪医科薬科大学病院から3名が確定している。

・病院単独としての受け入れと書いてあったので、協力・連携してやっていきたいということだが、今年度までの実態は、このような状況ではなかったということか。

受け入れとしては、別海病院だけで対応したのか。

研修医の研修としては。

病院事務長 三 戸

・基幹施設の協力・連携病院というのは、別海病院単独で研修医を受け入れて、研修に必要な単位を満たす病院にはなっていないので、例えば、研修医を出すような病院、市立釧路病院あるいは市立枚方病院、大阪医科薬科大学病院のそういったところは、研修を受けさせることで、研修に必要な単位を取れるということで、その協力をできる病

令和6年第1回福祉医療常任委員会 要点記録

			院という位置づけに別海病院があるので、市立釧路病院の研修医の先生、大阪医科薬科大学病院の先生、市立枚方病院の先生といった方々が、研修先として協力病院である別海病院を選ばると、そこでの研修で必要な単位を満たすというような意味。
委員	9番	小 椋	・個人的に縁があって、ごはんとか食べに行くと、この地域の自然環境が豊かっているのを満喫されている先生もいて、そういう先生がすぐに就職先を選ぶというのは別問題だと思うが、興味を持っていたかいているみたいな人と戻られた後もコミュニケーションをとり続けていたりというのはあるのか。
病院事務課長		榎 木	・連絡を取り続けているということはないが、大阪医科薬科大学病院からは正式な常勤医ではないが、当直医で出張医として来ていただいていることもある。
			今、大阪の方で在籍している先生の名簿を見ると、過去に研修を受けた先生の名前も掲載していますので、そういうところを探っていきたいなというところではある。
病院事務長		三 戸	・大阪医科薬科大学病院は、非常に市立枚方病院の近くにあって、市立枚方病院の研修医の方も大阪医科薬科大学の卒業生も非常に多い。
			大阪医科薬科大学病院も、うちが市立枚方病院の研修を受けている関係で、研修を受けてくれるようになった。
委員長	10番	外 山	・退職医師の穴を埋めるような形で研修医が来てくれるということなので、医師の負担にはならないということでもいいか。
			新たにきていただける先生もみつかったところではあるが、今、定期できている先生もちょっと4月から来れない先生もいたり、ただ、去年より回数を増やせるという先生もいて、あと、民間の斡旋業者に力を入れて、何とか努力している。
委員長	10番	外 山	・他に質疑あるか。
委員		一 同	・なし
委員長	10番	外 山	閉会挨拶
			10:17 閉会